

# 〈教科書「地方議員」リレートーク〉

■共同採択から、単独採択に向けて！

匝瑳市議会議員 無所属 都祭 広一

教科書採択について、私の住む千葉県匝瑳市で

は、海匝地区採択協議会として、銚子市、旭市、匝瑳市で共同採択がされています。



議会での一般質問を通じ、その協議会の会議録から、教科書の「絞り込み」の疑いが浮かび上がってきました。学習指導要領に基づいた教科書選定を行うなら、しかるべき具体的な比較調査資料の作成が必須ですが、決してそうはしません。「共同採択」制度も、一見効率的なシステムに見えますが、現場の教職員の意見や各教育委員会の意向が反映されにくいのが実情です。教科書の選択は本来、各自治体の教育委員会がすべき事項であり、今後は各自治体による「単独採択」に切り替える取り組みを市民とともに展開したいと考えています。

歴史教育のもう一つの問題点は、教育無償化の中に残る、生徒が自主購入する「副教材」の存在です。教科書の内容を補完する体裁の副教材は検定を経ず、さらに現場の先生が自由に選択できます。近現代史では、教科書以上に大東亜戦争でのいわれなき日本の加害責任が強調されており看過できません。

正常な教育環境の構築は、教科書採択制度の見直しから！

これからも、しっかりと歴史と伝統文化を大切にした教育とまちづくりで専心して参ります！

■つくる会の皆さんとともにつくる議会質問

八千代市議会議員 参政党 若松 ひろし

私が「中学校歴史教科書問題」について、この

二年間、議会の中でどのように取り組んで来たかをご報告いたします。



●令和5年9月：「各社教科書項目別比較表」を基に、八千代市で採択している教科書の記述の問題点を指摘

●令和6年1月：全国約百名の参政党地方議員向けに、教科書問題の勉強会を主催し、議会質問の輪を広げる

●3月：「小学校社会科教科書 歴史編」の記述について指摘

●6月：文科省初等中等教育局長通達「教科書採択における公正確保の徹底等について」を基に、教育長の見解を問う

●9月：八千代市が26年間も同じ出版社の歴史教科書を採択し続け来た理由について質す

●12月：教科書展示会の公開方法の不備を指摘し、改善を要求

●令和7年3月：単独採択・共同採択の各メリット・デメリットを質し、単独採択への移行を提案

こうした活動の中で、皆様に是非知って頂きたいのは、私が議会質問で使用した各種資料や質問のテーマの選定は、つくる会の皆さんからの情報提供や助言がなければ、成り立たなかったという点です。議員と民間の協力が、政治を変えて行くと私は確信しています。